

## がん検診の注意事項(必ずお読みください)

- ◎ご心配がある場合や、自覚症状があり早く検査を受けたい等の場合には、検診を待たずに早急に医療機関等を受診されることをお勧めします。
- ◎職場等で受診機会のあるかたは、そちらを優先してください。
- ◎当日の問診内容によっては、受診いただけないことがあります。
- ◎検診時になんらかの介助を要するかたは、予約時にご相談ください。安全に検診を受診いただけない危険性がある場合、受診いただけないことがあります。
- ◎耳の不自由なかたは、FAX用の申込み用紙がありますので、ホームページからダウンロード・印刷するか健康増進課(FAX:23-5071)までご連絡ください。
- ◎台風接近や豪雨等の荒天や感染症の拡大防止のため、やむを得ず検診を中止する場合があります(原則的に午前の集団検診は午前7時時点、午後の集団検診は午前11時時点で暴風警報発令中の場合は中止となります)。警報発令時・緊急事態宣言発令時は実施状況を健康増進課(TEL:23-6639)までお問合せください。
- ◎受診日の10日前の時点で予約人数が規定に達しない場合は、集団検診を中止する場合があります。(その場合は予約されたかたへご連絡いたしますので、日程の変更をお願いいたします。)
- ◎お子様を連れての検診受診は、事故防止の観点からもお断りしております。はるさき健診センターの託児については⑩ページをご覧ください。
- ◎岡崎市外へ転出されたかたは同封の岡崎市がん検診等受診券等は使用できません。転出先の市区町村へお問合せください。
- ◎検診の結果は、岡崎市にて保存し、必要に応じて保健指導等に活用することをご了承の上、受診してください。
- ◎検診に関わる個人情報、保健事業以外には使用しません。
- ◎検診の結果が要精密検査となった場合には、必ず精密検査を受ける必要があります。精密検査の方法については、下の説明をご覧ください。なお、精密検査は保険診療となるため公費の補助はありません。
- ◎精密検査の結果は岡崎市へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも後日精密検査結果が共有されます(医療機関の検診精度向上のため)。また、精密検査の結果について、岡崎市から本人様及び医療機関に問合せすることがあります。
- ◎⑨ページの方法による各がん検診は、死亡率を減少させる(子宮頸がんは罹患率も減少させる)ことが科学的に証明された有効な検診です(前立腺がん検診は除く)。ただし、がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんががん検診で見つかるわけではありません。また、がんでなくても「要精検」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったために不必要な治療を受けなければならない場合もあります。また、どのような検査にも偶発症(医療行為に伴って予期せず起こる合併症)の可能性がります。
- ◎胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん(女性)は、わが国のがん死亡の上位に位置しています。また、子宮頸がんの罹患は、わが国の女性のがんの中で比較的多く、近年増加傾向にあります。

### <精密検査の方法> ※検診で「要精密検査」となったら、必ず精密検査を受けてください。

- 胃がん検診**：胃内視鏡検査を行います。胃内視鏡検査では、口または鼻から胃の中に内視鏡を挿入し、胃の内部を観察します。検査で疑わしい部位がみつければ、生検(組織を採取し、悪性かどうか調べる検査)を行う場合もあります。
- 肺がん検診**：CTまたは気管支鏡検査などを行います。CTでは、X線を使って病変が疑われた部位の断面図を撮影し詳しく調べます。気管支鏡検査では、気管支鏡を口や鼻から気管支に挿入して病変が疑われた部分を直接観察します。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。
- 大腸がん検診**：第一選択は全大腸内視鏡検査です。全大腸内視鏡検査では、下剤で大腸を空にした後に、肛門から内視鏡を挿入して大腸を撮影し、がんやポリープなどがいないか調べます。必要に応じて組織を採取し悪性かどうか診断します。大腸の奥まで観察することが困難な場合もあり、その場合は他の検査方法が用いられることがあります。大腸全体を内視鏡で観察することが困難な場合には、内視鏡が届かない奥の大腸をX線検査で調べます。大腸のX線検査は、下剤で大腸を空にした後に、肛門からバリウムを注入し、空気で大腸をふくらませて大腸全体のX線写真を色々な方面から撮影する検査です。
- 子宮頸がん検診**：コルポスコプ検査(またはHPV検査)を行います。コルポスコプ検査では、コルポスコプ(陰拡大鏡)を使って子宮頸部を詳しく見ます。異常な部位が見つければ、組織を一部採取して悪性かどうかを診断します。また、細胞診の結果によってはHPV検査を行い、コルポスコプ検査が必要かどうかを判断することもあります。
- 乳がん検診**：マンモグラフィ追加撮影、超音波検査、細胞診・組織診を行います。マンモグラフィ追加撮影では、疑わしい部位を多方面から撮影します。乳房の超音波検査では、超音波で、疑わしい部位を詳しく観察します。細胞診・組織診では、疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し悪性かどうか診断します。

出典:国立がんセンターがん対策情報センター「がん検診受診者への説明資料」